

足摺岬物語

君といくなら
足摺山甲よ
足摺踊

足摺半島には5,000年もの昔より縄文時代から人が暮らしていた。九州産の黒曜石の尖頭が、多く出土した。鹿の角の巨石群やストーンサークルには太古のエネルギーとロマンを感じる。パワースポット！

土佐湾を抱え込むように四国最南端に位置する足摺半島。背後の険しい山地には、ツバキ・ウバカシ・シロ・カシ・ユスなどの深い森があり、海岸部にはアワやヒロウなどの亜熱帯の木々が太平洋からの潮風に揺れ、南国土佐の風情が感じられる。

金剛福寺までの行程は岩場が続き、光寺へも土佐路にあり最長。まさに足と膝をすり「あしすり」の難行行程。昔は山坂を越え谷を渡り、危険な崖や磯道、迷えば深山に入り込む悪路だった。

秋は赤いノジキとツツク。ノジキは物部川で獲ることができない不思議な性質がある。

足摺岬はカリオ漁の好漁場。大いに釣る。

ヒロウ自生地。大地の果ての足摺。亜熱帯植物のヒロウ。自生の東限がある。海からの強風により樹高は低い。

天狗の鼻。21世紀に残したい日本の風景。四国唯一。天狗の鼻から灯台を望む。

展望台。三面を太平洋に開く絶景。地球の丸さが感じられる。水平線が広がる。

弘法大師が爪で「南無阿彌陀仏」と刻んだと伝わる岩。

一夜建立、不成の華衣（未完の鳥居跡）

足摺山甲

航行目標。かつては蹠蹠の山甲と保安林で知られていた。白皇山のある佐田山は「蹠蹠山」と西施で漢字名を改めたもの。

空海伝説 足摺七不思議。断崖の絶景 足摺岬。ヤグツバキの遊歩道に沿って2,000年前金剛福寺を開いた弘法大師。空海に由来する足摺七不思議。潮風に吹かれながら太古の歴史とロマンに触れて歩くのも楽しい。

天狗伝説

足摺の原生樹林の奥には天狗が住むといわれている。金剛福寺の領地が殺生禁断の布告により住民が足を踏み入れることができない山でもあった。最深峰 白皇山には修験の山伏が行来する様子。まさに天狗が住む山中として畏れられている。現代も白皇山ではしばしば道に迷う登山事故が発生する。これも天狗の仕業かも知れない。

足摺山 (蹠蹠山) 168M

国有林、金剛福寺敷地、市有林からなる。その昔、仏教僧達の修験道場、霊山として信仰の場所でもあった。休養林、自然休養林にも指定され国民のくらしを守りやあらわしている。蹠蹠山の由来は、空海が足摺岬の樹林に住む悪魔を調伏し、怪参に悪魔が「足すり、踏みしめる」という意味が地名の源となり、江戸の頃より足摺と呼ばれるようになった。

亜熱帯植物園

足摺は珍しい植物の宝庫。ロベリア・ムード漂う岬の一面に日本最北端の亜熱帯植物園がある。まるでジャワ島のような様相で亜熱帯の花やヒロウ、シダ、ヤシなどの植物が咲き誇っている。昭和48年(1974)開園。足摺の景観を活かし、遊歩道や休憩舎、バスターミナルなどが設けられている。昭和55年には天皇陛下の行幸と見合ったところでもある。

金剛福寺の山門には「補陀落車門」の額。平安初期、蹠蹠山を皇の山とする。仏教信仰ではインドの南海上に観音浄土(補陀落の浄土)があるとされ、そこから見ると足摺岬は東方に位置することから「東門」とされたという。

金剛福寺

渡海僧の碑

白皇神社

木の股地蔵

亀岩

樹林の中にどんと金魚座。亀呼場の方を向いている。正真正銘の自然石。頭をなでると御利益。

伊佐経塚

足摺岬岬台用から鎌倉時代に仏教教養を身に納めた二本の経塚が発見され、国立博物館に所蔵されている。

空海伝説

空海が灯台沖の不動岩へ渡すために空を飛び、伝わる断崖の上。「おへいカメさんよ」と叫ぶとカメが現れることもあるという。

亀呼場

空海が灯台沖の不動岩へ渡すために空を飛び、伝わる断崖の上。「おへいカメさんよ」と叫ぶとカメが現れることもあるという。

足摺山甲

航行目標。かつては蹠蹠の山甲と保安林で知られていた。白皇山のある佐田山は「蹠蹠山」と西施で漢字名を改めたもの。

空海伝説 足摺七不思議

断崖の絶景 足摺岬。ヤグツバキの遊歩道に沿って2,000年前金剛福寺を開いた弘法大師。空海に由来する足摺七不思議。潮風に吹かれながら太古の歴史とロマンに触れて歩くのも楽しい。

参考文献

土佐清水市史(下)

2015.6.4